



48-1 鳴沢における遭難者搜索の様子(パノラマ風に撮影された2枚の写真のうち、重なる部分を合成して継いだもの)

#### 48 青森衛戍歩兵第五聯隊第二大隊雪中行軍遭難写真 陸地測量部

明治三十五年(一九〇二) 一冊 三の丸尚蔵館

明治三十五年一月二十三日、百九十余名の犠牲者を出した青森歩兵第五聯隊第二大隊の八甲田山麓における雪中行軍遭難事件に関する写真帖とその関連資料。事件発生後、参謀本部から遭難現場へ派遣された陸地測量部の陸軍歩兵大尉外谷鉦二郎・陸地測量手斎藤太郎は、二月九日から十六日まで悪天候の中、捜索隊の活動や遭難地の様子、救助された将兵等を撮影した。撮影写真にはそれぞれ説明文が付され、また遭難地の図面と遭難将校の肖像写真が添えられ、三月に歩兵第五聯隊より陸軍省へ送付された。その後、写真帖として調製の上、献上されたのが掲載資料である。吹雪と深雪の中の遭難者の搜索、埋没した搜索隊の哨所廠舎、屋外の遺体収容所、手櫓てぞりによる収容遺体の搬送、衛戍病院内の収容者等を撮影した写真は、搜索の労苦と事件の悲惨さを如実に物語っている。

事件発生の報をお聞きになった明治天皇は、二回にわたり侍従武官を状況視察のため現地へ差し遣わされた。また、遭難将校・同相当官の氏名の調査・記録を命じるとともに、遭難者の搜索状況をしばしば御下問になった。皇后(昭憲皇太后)も日夜遭難者の身を案じられ、「うつもれし人を惜みて青森の雪をいかにといはぬ日そなき」との歌を詠まれている(参考27)。救助収容された者には菓子料が、死者には祭料が天皇・皇后より下賜された。なお、全遭難者の発見は五月二十八日、第八師団長による遭難事件の顛末についての奏上は六月九日のことであった。

参考27 昭憲皇太后御集



48-3 田茂木野南方大平に設置の第十四哨所(雪中にある左右の黒い部分は廠舎の屋根)



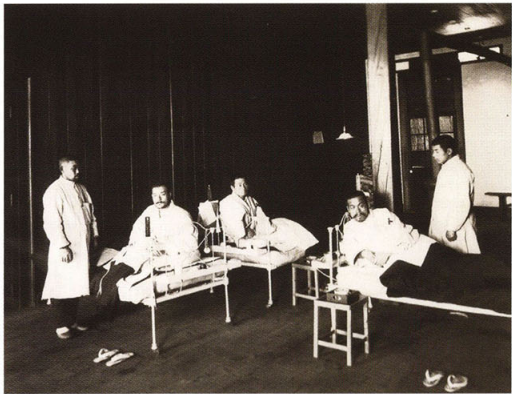
48-2 捜索に協力したアイヌの人々(中央は指揮をとった弁開胤次郎)



48-5 田茂木野における遺体収容所の一部



48-4 賽ノ河原第八哨所における捜索隊廠舎内(雪中穴居の様子)



48-7 負傷者写真(中央は倉石一大尉)



48-6 興津景敏大尉の遺体運搬の様子



48-8 凍死将校写真

参考28 遭難者人名一覧

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治天皇 邦を知り国を治める——近代の国見と天皇のまなざし

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 67

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年一月十日発行

© 2015, The Archives and Mausolea Department

The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan  
Imperial Household Agency